



赤水自画像

【立原健甫】

2024 年退教秋のツアー高萩市は私にとって大変有意義で、赤水の業績に驚愕しました。

伊能忠敬「大日本沿海輿地図」(測量図)が完成した文政4(1821)年より42年も前に、長久保赤水は天文学を学び、国絵図や地誌などの多くの資料から情報を集め、そこに経緯線を入れる事により精度の高い日本国「改正日本分離図」明和5年(1768)後の「改正日本輿地路程全図」(編集図)安政8年(1779)を完成したのです。

この退教秋のツアーに参加を望んでいて、10月に逝ってしまった吉成和夫さんに資料と記録写真を送付しました。

【山田修一】

初参加の退教ツアー

教員を退職して退教の会員になってからは、会員名簿に載せていただけでした。

今回、「2024 秋のツアー」の案内が届いたので、会員名簿に載せているだけでなく参加しようと思いました。

今回の案内で長久保赤水という人物を初めて知りました。

日本地図を作った人物と言えば、伊能忠敬がまず浮かびますが、長久保赤水がその前に日本地図を作っている、と初めて知り、良い学習になったと思っています。

行きのバスの中では、参加者の自己紹介と岡野先生による長久保赤水の事前学習、さすがに元教員のツアーですね。

最初に松岡藩の豪農、穂積家住宅を見学。江戸時代の豪農の暮らしを想像させてくれました。その後、高萩市歴史民俗資料館で長久保赤水が作った日本地図を、説明していただきながら見ました。

松岡小学校で弁当を食べ、鶴の岬に寄って、バスに乗り、水戸駅南口で解散です。帰りのバス中では、ビンゴ大会もありました。

長久保赤水の資料も沢山、いただきました。学習しなくてはと思います。

懐かしい人達にも会えて、楽しく有意義な1日でした。



資料館館長の説明に聞き入る参加者



昼食会場は松岡小学校特別教室。なのでアルコールは無し！

【小野 久江】

雨模様の朝でしたが“晴れ女”自称の二宮会長の念力が功を奏してか、バスの中から青空を見ることができて、快適な一日のスタートとなりました。『長久保赤水』に深く興味関心があったの参加というよりも、全く個人的な思い出と結びついて、高萩の地「赤水のふるさと」へのツアーに、ワクワクしながら参加したのでした。

私の夫(利勝)は亡くなって二十七回忌を迎えたところでした。高校を卒業して間もなく、高萩市若栗中学校の分教場へ代用教員となって、大学へ入学するまでの約8年間を過ごしたと聞きました。そこで2才年上の、教員をしていた長久保源蔵さんと出会います。二人は何かと意気投合していきま。す。「分教場にも、校歌があってもいいのではないかと、源蔵さんが作詞、利勝が作曲したのです。

利勝が64才で亡くなってから、源蔵さんから電話をいただきました。「自叙伝を書いているが、小野さんと校歌を作ったことを載せないと私の自叙伝は終われない」と。送っていただいた自叙伝には、五線上のメロディと歌詞が載っていました。後に息子とお会いしに行きました。かって、利勝に案内されて、大北川溪流(多分)沿い

に歩いて、閉鎖されていた分教場を訪れたこともありました。

「赤水」と深い縁のある源蔵さんとのなつかしく、うれしかった出会いを通して、江戸時代を生き「赤水」への関心と呼び覚まされた気がしています。今回のツアーに参加するにあたって、「長久保赤水顕彰会」の顧問をしている源蔵さんにお会いしたいなと、小さなワクワク感を持って行きましたが、8月に亡くなられたことを知りました。残念です。

お恥ずかしいくらいにしか知らなかった「赤水」を、バスの中での岡野さんのレクチャー、更に顕彰会会長佐川春久先生の熱のこもった講和や、準備中の資料館に入れていただいて、赤水の業績の広さ深さに感動しました。

源蔵さんが残された研究書、論文などの多さに驚いています。その中で私が興味を持って手元に置いて開いている本があります。「創作民謡・童謡詩人 野口雨情の生涯」昭和55年初版発行、平成5年三版発行(暁印書籍)

とても分厚い本で、なかなか全部をよむまでには至りませんが、「赤水の子、藤八郎からつながる野口家との歴史」を知って驚きました。歴史を“ひもとく”楽しさです。最近、旅に出たい気持ちと、それを億劫がる気持ちの小さなたたかいのような日々があります。ほんの一日のバスツアーで高萩へ～短いけれど旅をした思いが心地よく残ります。春・秋の茨退教の小さな旅は、そんな思いを抱かせてくれます。「出かけてよかったなあ」この一言が、私の一番の感想です。